キャラクター名: ルィール・スノードロップ

プレイヤー名:

メインクラス	アコライト	**Lv.1:**		**レベル**	2
サポートクラス	ガンスリンガー	**Lv.1:**	ガンスリンガー	**性別**	♀
称号クラス				**年齢**	23
種族	エルダナーン			**境遇**	略奪
出自 **(効果)**	闘士			**目標**	復讐

	筋力	**器用**	**敏捷**	**知力**	**感知**	**精神**	**幸運**
基本値	8	12	9	12	7	16	7
ボーナス	2	4	3	4	2	5	2
クラス修正	0	2	0	1	1	2	0
他修正							
能力値	2	6	3	5	3	7	2

HP	36
MP	45
フェイト	5

装備品		**射程**	**命中**	**攻撃**	**回避**	**物防**	**魔防**	**行動**	**移動**
右手	ガンパード	10m	0	8	0	0	0	0	0
左手									
頭部	ハット					1			
胴部	クロスアーマー					3			
補助	マント					1			
装身具	手入れ道具			1					
能力値			6	0	3	0	7	6	7
スキル	フェイス：アーケンラーヴ		1						
その他									
総計(右)			7	9	3	5	7	6	7 m
総計(左)									
総計(両)									
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	3			3	+ 2 d
トラップ解除	6			6	+ 2 d
危険感知	3			3	+ 3 d
エネミー識別	5			5	+ 2 d
アイテム鑑定	5			5	+ 2 d
魔術判定	5			5	+ 2 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
◆だいじなもの◆	ＭＰポーション
冒険者セット	ＭＰポーション
バックパック	
小道具入れ	
チョーク	
筆記用具	
手入れ道具	
◆消費アイテム◆	
ＭＰポーション	

現在重量： 9		
最大重量： 10	所持金： 263	預金・借金：

スキル名	**SL**	**コスト**	**タイミング**	**射程**	**対象**	**判定**	**制限**	**メモ**
フォティテュード	★	-	パッシヴ	-	-	-		
効果：	作成時に精神基本値+3							
プロテクション	3	3	DR直後	20m	単体	自動成功	1/MP	
効果：	対象が受ける予定のダメージに-[SLd]							
ヒール	1	4	メジャー	20m	単体	魔術判定		
効果：	対象のＨＰ回復を行う。対象のＨＰを[3D+ＣＬ×3]点回復							
キャリバー	1	-	アイテム	-	自身	-		
効果：	キャリバーを一個修得する。							
キャリバーガンパート	1	-	アイテム	-	効果参照	-		
効果：	「種別：魔導銃」の武器の「攻撃力」に「ＳＬ×3」し、「重量：6」「装備部位：双」に変更する。							
キュアー	1	5	メジャー	20m	単体	魔術判定		
効果：	対象が受けているＢＳを全て回復する。							
アームズマスタリー	1	-	パッシブ	-	単体	-		
効果：	武器を使用した命中判定に+1Ｄする。							
フェイス：アーケンラーヴ	1	-	パッシブ	-	自身	-		
効果：	あらゆる命中判定の達成値に+1する。							
サーチリスク	1	-	パッシブ	-	自身	-		
効果：	危険感知の判定に+1d							
トレーニング：器用	1	-	パッシブ	-	自身	-		
効果：	器用の能力基本値を+3する							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

ルィール・スノードロップ

「ルィールについてですか？」

ルィールの出立の日、街から迎えに村に来た
シスターが質問を投げかけてきた
「彼女は、気立てもよく、他の子供達からも慕われ、敬虔なシスターですよ。
私が言うのもなんですが、器量もよく
この村から離れるのは、村の男たちも残念がるでしょうねぇ」
冗談を交えながら、彼女……ルィール・スノードロップの評価を語る
しかし、彼女の生い立ちを思うと
顔が歪む
「……彼女と出会ったのは、15年前になりますかねぇ。それはとてもとても凄惨な事件でした。」
あの時の事を思い出しながら言葉を選ぶ
「……商団が盗賊に襲われたようでした
確か、グラディエーターにするための奴隷達を乗せた商団だったかと……
商団側も、応戦した結果なんでしょう。
それはそれはまるで……戦場のような、様相でした。」

むせ返るような血の海で、彼女は月明かりを受けながら一挺のキャリバーを抱えて佇んでいた

「最初は、警戒されてたのでしょうな